

750種2万株 東沢バラ公園 (村山市)



750種、約2万株が咲き誇る東沢バラ公園。秋の花は小振りだが香りがよい

優雅な香り 恋人の聖地に

優雅な香りが鼻をくすぐる。村山市の「東沢バラ公園」。秋の祭り(9月7~30日)の最中で、来場者を楽しませている。約7万平方メートルの広大な敷地に750種2万株を超え、東北一の規模を誇る。全国でも有数のバラ園だ。

夏と秋に開花

オレンジ色の「プリンセス・ミチコ」が迎える。皇后美智子さまが皇太子妃時代に英国から贈られた。奥に進むと小ぶりだが鮮やかなピンクの花びらが印象的だ。「公園の高台から見下ろす

景色はさすがすがしく美しい。お客さんをおもてなしするのはやりがいがあります」  
こう語るのは2001年に発足した観光ボランティア「グリーンローズ」の山岸守会長(80)。初夏と秋に行われる祭りでメンバー4人と園内ガイドを務める。  
30分から45分ほどかけ、園入り口から中ほどまでを巡る。750品種の中から、プリンセス・ミチコをはじめ、珍しい品種の香りや咲き方、エピソードについて丁寧に紹介している。  
魅力を山岸さんに尋ねた。「秋は、花が小ぶりで香りが上品。夏よりも風情があると言う人もいます」と教えてくれた。  
1956年、市民憩いの場として東沢公園の一角に70品種、700株が植えられたのが始まりだ。93年からは観光の目玉にしようと拡張整備が始まり、2001年に現在の名称で開園した。毎年約6万



人が訪れる。市から手入れを任せられている緑地管理業者「昭寿園」スタッフの須藤正行さん(63)は、市役所勤務時代から同園の管理を行う。「手入れが生活の一部になるほど、世話を焼いてきた自負があります」と語る。少しの変化も見逃すまいと、須藤さんは3055日、朝の見回りを欠かさない。  
見事な花を咲かせることは、こうした1年を通じた手入れにある。須藤さんらスタッフ約20人は、雪が残る3月、花が付く位置を計算しながら新芽を剪定(せんてい)し、初夏の花が終わる7月からは盛りを過ぎた花を取り除く。10月には約2万株の一本一本を縄で縛り、雪の重さから枝を守る。  
公園への来客者は主に愛好家が多いシニア層。バラを観光の柱の一つと位置付ける村山市は近年、若者の誘客にも力を入れ始めた。  
ことし3月には、プロボーズにふさわしい場所として、NPO法人地域活性化支援センター(静岡県)から「恋人の聖地」に選ばれた。園内で行われるフォトウエディングや婚活イベントも好評という。市商工観光課は「今後ともカップル向けのイベントを多く企画したい」と話す。

若者誘客に力

園内には水をまくスプリンクラーがないが、周囲の環境が支える。山と三つの湖に囲まれ、生育によい影響を与えている。「雪解け水や雨水が地下を通り、酷暑でも枯れることはありません」と須藤さん  
園中央にある鐘「ローズベル」は、二人で鳴らせば幸せになれるという。公園が恋人たちの笑顔であふれるのも、そう遠くはない。  
生活文化部・長門紀穂子 写真も



バラを剪定する須藤さん(左)とガイドの山岸さん